

# 高齢化する「ふるさと」を思う

井之川出身 村岡 吉宗 (78歳)

去る4月16日に総務省は、平成24年12月1日現在の人口推計を発表された。

総人口1億2750万人に対し、65歳以上が3079万人もあり、割合で見ると24%以上で、正に長寿大国であり、国際的に見ても国際連合(WHO)では、人口の7%を高齡化社会、14%を高齡社会と規定しているそうです。国内では47都道府県の内40の府県が人口減少となっている。地方から都市への人口集中は、諸外国でも同様の傾向があるようです。

平成24年12月1日現在の徳之島3町の人口は、25239人(別表)まで減っております。また、高齡化が進み、人口に占める割合は30%にもなっており、若者達にとっては進学や仕事を求めて都会へと、出て行かれるのもやむを得ないものと思っております。

島に残る人達のうち若者が減り、高齡者が増えていくので、住んでいる集落住民の半分以上が高齡者で、交通機関やスーパーもなくなると限界集落となり、いずれは、集落が消滅する恐れもあり、すでに全国で限界集落が8000近くも有ると云われております。島の高齡者のうち、一人世帯や老夫婦世帯が多いものと思われるが、唯一の収入は国民年金で有り、40年の満期をかけていても、月額65000円しかなく、たとえ、都会に子供が居たとしても、家のローンや子供の教育費などで、親への送金は困難と思われる。高齡者の中には、国民年金に加入すらしていない人もおり、いずれは、生活保護受給者になるかも知れない。

本年3月31日現在の3町的生活保護受給者は、1129人もいて、高齡者が全体の52%を占めております。国の平均が42%ですから10%も高い。



生活保護を受ける前提には、いろんな制約があって、田や畑を所有している場合には、資産の活用というところで、処分の対象となり、何かと面倒なことになります。

また、人間加齢と共に生活機能の低下により、健康や生活の不安があり、一人で食事、排泄、着脱、入浴移動等が出来ない状態になると、日常生活に支障をきたすので、介護保険に加入している人達は、平成12年

## 参考資料:平成25年3月31日現在の人口及び生活保護受給者

	人口	65歳以上(高齡者の割合)
徳之島3町全体	25,239人	7,642人(30%)
徳之島町	11,630人	3,246人(28%)
伊仙町	7,087人	2,365人(32%)
天城町	6,522人	2,031人(30%)

	生活保護受給者	人員数(人口に対する割合)
徳之島3町全体	804世帯(421世帯)	1,129人(587人…52%)
徳之島町	369世帯	550人(5%)
伊仙町	239世帯	307人(4%)
天城町	196世帯	272人(4%)

4月1日から開始された介護サービスを受けるようになると思います。自分も後期高齡者の一人として、健康に不安を抱えながらも、義務教育を終えるまで暮らした「ふるさと」を一日たりとも忘れたことはない、常に心は「ふるさと」にあり、ふるさとの同世代以上の人達のことを思うと気がかりでもある。

裕福ではないかも知れないが、島んちゅう同士が色々な機会を通じて

括弧内は高齡者の割合

仲良く交流を図り、余生を楽しく過ごすことを祈念してやまない次第である。

注) 上記については、平成25年5月20日に3町の役場及び鹿児島県庁に確認